







◇ 行 政 視 察 概 要 ◇

委 員 会 名	総 務 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 森 為次 [副委員長] 野中 一秀 [委員] 面村 好高 [委員] 鞆岡 誠 [委員] 谷尻 宣雄	[委員] 松尾 武治 [委員] 橋本 尊文
視 察 先	岐阜県関市	愛知県高浜市
視 察 日 時	H29. 8. 1 (火) 午後2時00分 ~ 午後4時00分	H29. 8. 2 (水) 午前10時 ~ 正午
調 査 事 項	「せき行財政改革アクションプラン」について (主な調査内容) ・アクションプラン策定の経緯及び内容について ・アクションプラン策定後の取組み及び成果について	「公共施設あり方検討」の取組みについて (主な調査内容) ・取組みの経緯について ・「公共施設あり方計画」の市庁舎整備への反映について ・市民の理解を得るための方策について ・「公共施設マネジメント基本条例」について
教 示 内 容 等 (抜 粋)	関市では、昭和61年から始まった5年ごとの行政改革大綱を、「課題を残したままの行革でスピード感が無い」という市長の指摘により、平成26年に新たに数値(金額)目標の設定、成果の「見える化」、3年計画に短縮という見直しポイントをもって新しい行革(せき行財政改革アクションプランを策定)をスタートされ、市長公室秘書広報課経営戦略室を中心に行政改革推進本部を設置されました。 常に市長、議会、外部機関の行政改革推進審議会と連携を図り、毎年検証し、市民や職員に周知するなど、スピード感を持って取組まれています。2年間で約12億円の削減効果があり、次の改革に繋げたいとのことでした。	高浜市では、「公共施設マネジメント白書」「公共施設あり方計画」等を経て、公共施設の維持、更新には莫大な費用が必要であり、平成38年には基金が枯渇することが判明。議会の指摘、提案もあり「公共施設マネジメント基本条例」を制定され、検証、助言のための第三者委員会も設置されました。又、小学校の建替えに合わせ、公民館や体育センター等を複合化し、庁舎整備についても保有形態を見直し、民間のノウハウを最大限に活用したリース化に踏み切られるなど、今後を見越した発想に市民が賛同したという形でした。
	多くの自治体が直面している問題に対する先進的、画期的な取り組みを学ぶと同時に、行政と議会の連携による「施策のスピード感」を実感した研修でした。	
写 真	 	 

◇ 行 政 視 察 概 要 ◇

委 員 会 名	産 業 建 設 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 川勝 儀昭 [副委員長] 野村 健 [委員] 山下 秋則 [委員] 林 茂 [委員] 谷尻 昌史	[委員] 柿迫 正紀 [委員] 廣瀬 孝人
視 察 先	新潟県魚沼市	新潟県十日町市
視 察 日 時	H29. 7. 24 (月) 午後2時00分 ~ 午後4時00分	H29. 7. 25 (火) 午前9時00分 ~ 午前11時00分
調 査 事 項	若手が挑む商店街振興について (繁盛店づくりの波及効果)	地産地消推進事業について (地産地消推進事業補助金(市単独事業))
教 示 内 容 等 (抜 粋)	<p>小出地域には、4つの商店街組合があるが、急速な人口減少と高齢化が進み、後継者不足になっています。</p> <p>そこで平成25年度に取り組まれた個店の魅力アップセミナーがきっかけに繁盛店づくりに取り組まれたようです。お金をかけずに売上が伸ばせるような方法、そのノウハウ、直ぐに実践できるというようなところのお店のレイアウトや商品の陳列の手法等を学びたいという声があり、それらを踏まえて行われました。</p> <p>それに加えて個店の実践研修においては、講師が、実際に6店舗に出向き、改善点をアドバイスしていくという個店の活性化のセミナーを実施されました。その結果、積極的な店づくりや個店の魅力向上への気運が商店街の中で高まるというきっかけができ、受講された6店舗の皆さんはかなり意識が高まりました。</p> <p>さらに、平成26年度から平成28年度まで商店街活性化センターの繁盛店づくり事業を受講されました。平成28年6月には、魚沼市職人大学ほりのうちキャンパスを4店舗で発足され、自分たちのお店のディスプレイの見直しを図ったり、季節に合わせたディスプレイの展開、各種キャンペーンを開催していました。また、お店づくり・逸品づくりのセミナーを開催され、それらを踏まえて、平成29年度は、そういった商店を集めたカタログの作成に取り組まれています。</p>	<p>地産地消の推進により、地場産農産物の需要拡大をねらい、地域農業の発展を促進することに加えて、学校給食分野において、地産地消を推進することで、販路の確保・食育を推進することを目的に取り組まれています。</p> <p>地産地消推進事業補助金は、地場農産物の地域内消費の拡大を図るため、新鮮で安全かつ安心な地場産農産物の消費拡大に向けた生産者と消費者との交流や消費者向けの普及宣伝、特産品及び加工品開発のための費用の一部を助成されています。</p> <p>また、平成28年度からは、6次産業支援事業補助金を市単独事業として、新商品開発等支援事業、販売力強化支援事業ならびに販路拡大支援事業取り組まれています。さらに、学校給食地産地消推進事業補助金では、市内の学校給食において、新鮮で安全かつ安心な地元農産物を給食食材として使用することにより、地産地消の推進により、農業者の所得の確保を図ることを目的に、学校給食で使用するための農産物の生産にかかる経費を支援されています。そして、学校給食用米粉パンの差額助成をされています。市内の学校給食において、月1回十日町産魚沼コシヒカリを100%使用した米粉パンを提供している。その際、統一方式による小麦粉パンの価格と十日町産魚沼コシヒカリを使用した米粉パンの価格差を市とJAで7:3の割合で負担し、差額助成を行われています。</p>
	<p>セミナーを受講された方々が、より一層意識が高められたことより、他の商店街にも波及効果があったとの話を聞き、商店街振興のきっかけづくりの大切さを再確認することができました。</p>	<p>南丹市においても、地産地消の推進、担い手の確保や耕作放棄地の減少に努め、発展的な農業を推進していかなければならないことの思いを強く持った研修でした。</p>
写 真		

◇ 行 政 視 察 概 要 ◇

委 員 会 名	厚 生 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 木戸 徳吉 [副委員長] 前田 義明 [委員] 仲 絹枝 [委員] 大町 功 [委員] 井尻 治	[委員] 今面 不悖 [委員] 仲村 学
視 察 先	鳥取県鳥取市	岡山県津山市
視 察 日 時	H29. 8. 2 (水) 午後1時30分 ~ 午後3時00分	H29. 8. 3 (木) 午前10時00分 ~ 午前11時30分
調 査 事 項	エネルギーの地産地消へ向けた取り組みについて	「低炭素都市つやま」実現に向けての取り組み
教 示 内 容 等 (抜 粋)	「エネルギーの地産地消」 スマート・グリッドタウン構想（電力利用の効率化実現を目指し、情報通信技術を活用して電力の安定供給を実現するための電力送配電網）鳥取市スマート・グリッド推進協議会を設立。構成は鳥取市、大学、商工団体、産業支援機関、民間企業です。 環境エネルギー都市としてイメージが定着し、視察も多く、28年度に20件ありました。環境エネルギー産業の振興で、地域エネルギービジネス支援事業補助金制度を創設したことにより、新たに環境エネルギー産業に参入する事業者が増えてきています。	「低炭素都市つやま実現に向けての取り組み」 津山市では、再生可能エネルギー・省エネルギーの普及促進、自然環境の保全により、自然と調和した暮らしができるまちづくりで低炭素都市を目指しています。 25年度に、環境分野に特化した新エネルギー環境政策室を立ち上げました。その後、低炭素都市推進室と名称変更し、まち全体で低炭素の都市に取り組んでいく意思表示をして、具体的に中心市街地・公共施設の低炭素化、超小型モビリティの導入事業、市民発電所等に取り組んでいます。
	地域にある資源を活用した再生可能エネルギーの導入は、エネルギー問題への対応のみならず、地域活性化や地場産業振興等、様々な観点での波及効果があることがわかり、理解を深める研修となりました。	
写 真	